

2026 年度(令和 8 年度)

事業計画書

(第 16 事業年度)

自 2026 年 1 月 1 日

至 2026 年 12 月 31 日

公益社団法人企業メセナ協議会

## <目次>

支援・協業、そして共創へ 進化する企業のメセナ活動を発信 .....	2
重点目標と施策 .....	2
I.組織運営 .....	4
II.事業計画	
調査・研究 .....	5
認定・顕彰 .....	8
会員ネットワーク   セミナー .....	11
相談・協力   コンサルティング .....	13
助成 .....	14
広報 .....	16
III.年間スケジュール .....	19
IV.収支予算 .....	21

## 支援・協業、そして共創へ 進化する企業のメセナ活動を発信

2025年4月より、「新公益法人制度」の運用が開始され、2008年より続いていた現行の公益法人制度から様々な変更があった。社会変化に柔軟・迅速に対応し、より効果的な公益活動を実施することができるよう、自律的な経営判断が尊重されるとともに、透明性が高く、信頼性が高い仕組みへ見直すことが目的である。協議会は会計年度が1月から12月のため、実質的には2026年より、「新公益法人制度」に基づいて事業を実施していく。今回の変更の目的・内容を理解し、着実に運営していく。

企業のメセナ活動が、純粋な芸術文化支援はもとより、教育、地域、福祉、環境などにおける社会課題の解決に向けた企業活動へと広がりをみせていく中、多様なステークホルダーとの連携が不可欠となってきた。企業の側からの「支援」から、「協働・共創」へとシフトしていくであろう。企業、行政、NPO、地域住民、アーティストなど、多様な主体がそれぞれの強みを活かして対等に連携し、文化を通じた社会的価値を共に創り出す、そのような企業メセナ活動が増えつつある。本年も芸術文化を通じた心豊かでより良い社会づくりを進めている企業のメセナ活動を今まで以上に発信するとともに、企業間の連携や、様々な協業・共創の姿を広く発信し、「社会・経済・文化をつなぐメセナ」を顕在化することにより、企業のメセナ活動の広がりを促していく。

また、会員間での切磋琢磨する交流の場の提供などを積極的に実施し、会員企業の維持、獲得を引き続き行い、協議会の基盤強化に努める。

### ■重点目標と施策

#### 1. 企業メセナの裾野の拡大、企業メセナの意義と進化の発信のため、調査研究、認定顕彰、助成の各事業を中心に、情報連携を引き続き実施していく。

##### ① 調査研究

企業メセナの現状と過去からの変化、今後の可能性などを調査・分析し、それを発信することによって企業メセナの多様な価値を顕在化させ、今後の企業メセナ推進に役立てることができるよう事業を推進していく。

- ・メセナの定義をより広く捉え、メセナ活動であることを認識していない企業などにもアプローチし、企業のメセナ活動の裾野を広げていく。
- ・情報入手方法や回答数増加施策の検討を実施し、より実態に近いデータが得られるよう努める。
- ・調査回答から、企業メセナの広がりや進化を顕在化できるよう、様々な観点から調査項目の見直しを行う。
- ・調査研究部会の運営を見直し、分析精度の向上と報告書の充実を図る。
- ・メセナアソシエイト制度により、企業メセナを理解し、客観的な視点で深く掘り下げ、

発信することができる若手研究者、芸術文化関係者などの人材育成に努める。研究結果の有効な発信方法を検討する。

- ・協議会内・外で活用しやすいライブラリーの整理と運用について、引き続き推進し、メセナに関する研究に貢献する。

## ② 認定・顕彰

### ■認定(This is MECENAT)

引き続き活動の掘りおこしを強化し、TIMの認知度向上を目指す。

- ・調査事業など、協議会内の連携を着実に実施し、全国各地で行われている多くの企業メセナの掘りおこしを進め、認定につなげ、より多くの企業が取り組む流れをつくる。
- ・制度開始から長年蓄積された認定活動データの検索性、発信方法などを検討し、メセナの多様性の発信とTIM認知度向上を目指す。
- ・認定のメリット(翌年のアワード選考対象、協議会での広報支援)の認知を広め、活動の顕在化に努める。

### ■顕彰(アワード)

受賞活動を通して、社会の基盤を支えながら時代の変化を反映し、社会課題の解決にも貢献している企業メセナを発信する。

- ・審査項目や審査方法、審査会の運営なども含め、時代の変化やメセナの進化を踏まえた改善点を検討し、認定顕彰部会での意見も収集し、より受賞活動の社会的意義を理解しやすく発信できるよう、工夫・改善を行う。

## ③ 助成事業

特定公益増進法人である協議会への寄付が税制優遇の対象となることを更に周知するための施策を検討し、自治体や各地のアーツカウンシルなど、認知度向上の協力者を増やし、利用者増を図る。

- ・「社会創造アーツファンド」と連動したコーディネート事業のモデルを検討し、寄付者の意向に沿うファンドの形成を目指す。
- ・認定・採択された活動が、この制度のメリットを最大限に活用できるよう、認定・採択後の伴走を強化する。

## ④ 広報

Web、SNSの効果的な活用、企業側のSNSとの連携や動画等の有効活用など、様々な発信方法を検討し、国内外に広く発信することで、協議会のプレゼンス向上とメセナ活動の社会的意義の理解促進を図る。

- ・メセナライター制度により、新鮮な視点で企業のメセナ活動を発信するとともに、企業メセナの現場をより深く理解し発信する人材の育成・拡大に努める。
- ・リリース配信については、方法の検討と結果の検証を実施し、より効果的な発信を目指していく。

## 2. 芸術文化振興プラットフォーム機能の強化

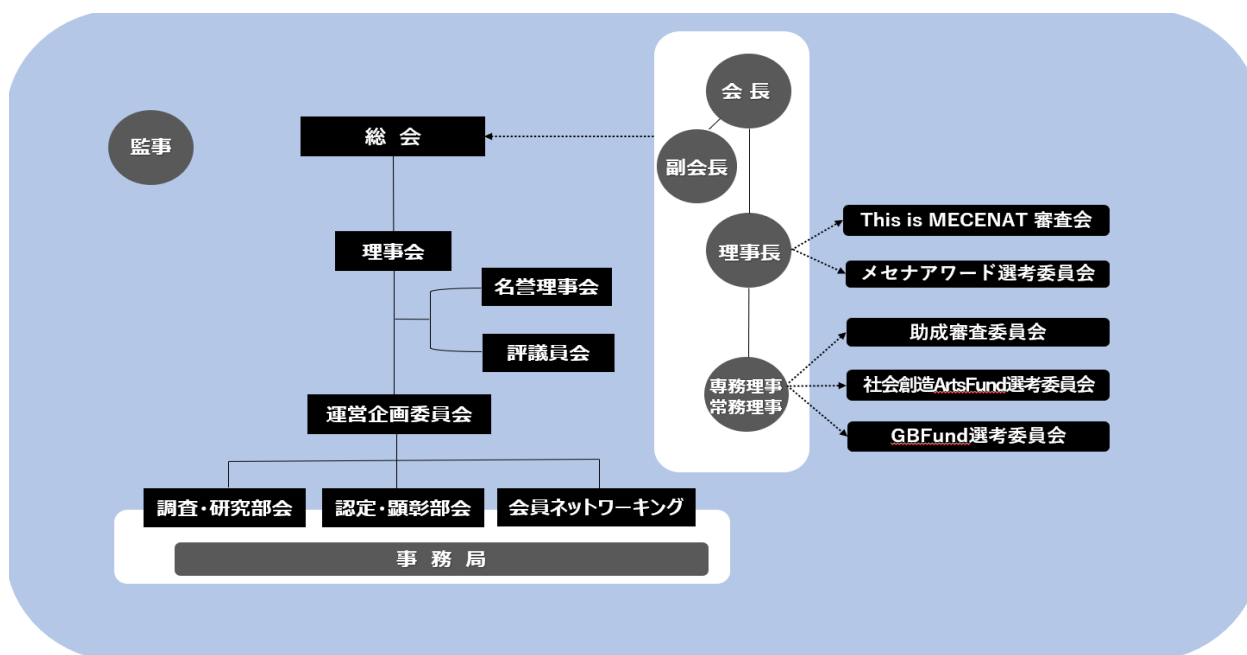
メセナ専門の中間支援組織として、企業や企業財団、市民やNPO組織、芸術文化にかかわる人、団体、組織をつなぐプラットフォームであることを認識し、社会・経済・文化をつなぐメセナの意義や価値を発信し、芸術文化振興に貢献する。

- ・会員相互の交流を促進し、コミュニケーションを強化し、オンラインなども活用しながら、必要とされる場、情報の提供を行う。
- ・企業メセナに関する唯一の中間支援組織として、大学や芸術文化関連団体などとの交流・連携を深め、セミナー、視察などを通じて芸術文化振興の促進に寄与する。
- ・全国メセナネットワークの幹事として、総会などでの情報交換や議論を通じて交流を深めながら、全国各地での活動の活性化に貢献する。

## 3. ガバナンス体制及び財務基盤の強化

令和7年4月からの「新公益法人制度」に則り、外部理事の適用等ガバナンス体制の強化に努める。また、会員の維持・新規獲得だけでなく、会費以外の事業収入の増収及び経費の見直しを検討し、安定的な財務基盤の強化を行い、公益事業の更なる拡充を目指す。

### I. 組織運営



### 1. 総会

会員が一堂に会し協議会の事業・運営について合意形成を図るとともに、会員相互に交流する機会と捉え、芸術文化振興に関する情報提供と、メセナ推進についての意見交換ができる場となるよう努める。[2026年3月開催]

## 2. 理事会

協議会の事業推進と組織拡大に努める。[通常理事会:2月、12月／ほか臨時理事会]

## 3. 役員会

理事を中心に、名誉理事・評議員・顧問を含めた役員合同会議を行うなど、協議会運営について幅広く指導を仰ぎ、あわせて情報の共有を図る機会とする。[必要に応じて開催]

## 4. 運営企画委員会

各部会・ワーキンググループ・プロジェクトチームの事業展開について共有・協議し、事務局とともに理事会への提案を行うなど、芸術文化振興に関する諸課題について実質的な議論を行う。[年3～4回程度開催]

## 5. 部会・ワーキンググループ・プロジェクトチーム

部会・ワーキンググループは各事業の方向性や制度設計等について議論し、事務局の実務の遂行に対してアドバイスをを行う。

- 調査研究部会:メセナ活動実態調査および事例研究等の推進
- 認定顕彰部会:認定制度「This is MECENAT」顕彰事業「メセナアワード」の推進
- 会員ネットワーキンググループ:会員相互のネットワーク形成に資する活動を展開

## II. 事業計画

### 【調査研究】

#### ■目的

日本の企業メセナの現状と可能性について調査・分析。日本のメセナ活動の状況・トレンドを理解し、またメセナ活動それぞれの固有の価値を抽出する。企業メセナの多様な価値を顕在化するとともに、今後の企業メセナ推進の一助となるよう、情報の整備を行う。

#### ■事業内容

### 1. メセナ活動実態調査

全国のメセナに取り組む企業・企業財団を対象とする定期調査。前年度の各社・団体の取り組み実態について、例年7～8月、企業約2,100社・企業財団約300団体へアンケート票を配布。秋頃に事務局での集計を経て、調査研究部会で議論を行い、翌春頃に集計データから見える最新トレンドを発表する(報告書『Mecenat Report』発行、報告会の実施)。調査結果は国内におけるメセナに関する唯一の統計調査として、企業、企業財団、国、自治体、文化機関等で活用されている。

## 2. メセナに関する事例研究(メセナアソシエイト・協議会アソシエイト)

2014年度より開始したメセナアソシエイトは、メセナ研究者育成を目的に毎年公募で募った若手外部研究員と協働し、「メセナ活動実態調査」や協議会把握データの活用、メセナ企業等へのヒアリング調査により、専門性を活かしたメセナの価値を掘り下げる事例研究を行い、結果を協議会 Web サイト上で公開する。

2020年度より開始した協議会アソシエイトは、芸術文化分野の若手研究者育成や最新情報の入手を目的に、協議会が設定するテーマに合わせて調査レポートを作成し、Web サイト上で公開する。

## 3. 国内外のメセナに関する情報収集

国内外における企業メセナや中間支援組織の活動について、基礎データを収集する。また、国外との比較を行い、日本の企業メセナの位置づけ、国際的なトレンド・兆候について情報収集を行う。

## 4. 情報ライブラリーの運営

協議会発行物やメセナ・文化政策・アートマネジメント等に関する書籍、企業・企業財団のメセナ資料の管理、利用者対応を行う。

### ■課 題

1. 「メセナ活動実態調査」回答データの量的・質的向上
2. 「メセナ活動実態調査」分析精度の向上と調査報告書の充実
3. 調査結果の活用機会の拡大
4. アソシエイト制度活用による企業メセナ活動の発信および活性化の促進
5. 特に国外における企業メセナなど芸術文化支援関連情報の収集強化
6. 情報ライブラリーの蔵書や資料の整理および活用方法の改善

### ■重点施策

1. 「メセナ活動実態調査」について、新規の企業・財団の掘り起こし。回答しやすい調査設計と回答動機付け強化
  - ① 未回答企業および財団の掘り起こしのため一定数の郵送での回答依頼は継続するとともに、TIM やクリッピング、ネットなどで収集する情報に基づいて新規の回答依頼企業および財団のリストアップとアプローチを強化する。また既存の企業および財団についても情報更新を進める。
  - ② 企業・財団が回答しやすく、協議会としても有効な回答を収集できるよう、調査設計を工夫し、回答精度と回答率の向上を図る。

- ③ 「メセナ活動実態調査」システムの利用状況により、必要に応じ機能向上を行うとともに、実態調査全体の効率化を図る。

## 2. 調査部会の議論の深化とそれにもとづく報告書内容の充実

- ① 調査部会のメンバー拡充を検討し、部会での議論の深化を図る。
- ② 部会での議論も受けて、報告書を作成することで、内容の充実を図り、回答企業と会員企業のメセナ活動推進に資する結果の提示を目指す。

## 3. 回答企業および会員企業に対する「メセナ活動実態調査」結果のフィードバック。および「メセナ活動実態調査」結果をきっかけとする企業メセナへの関心度向上への取り組み

- ① 調査報告書の送付先を引き続き公益財団、芸術団体、大学、経済団体を含む研究機関などへも広げ、メセナ活動の意義や実施団体の実態などについてより広く周知する。
- ② 調査報告書送付時のアンケートを継続して実施し、活用状況や要望を把握するように努める。引き続きメールでのアンケート送付も行う。また、調査結果に基づき、必要に応じて回答企業へヒアリングを行う。
- ③ 年1回程度、調査研究部会と連動した報告会を実施。結果のフィードバック機会の充実を図る。また、報告会は、前年度「メセナ活動実態調査」の回答集計・分析と連動したテーマ設定を行い、報告会後半では、会員企業や回答企業に有益なディスカッションになるよう、テーマに沿ったゲストの招聘などを企画する。

## 4. アソシエイト制度の充実と活動の強化

- ① 本年度も様々な立場から、メセナ活動の今日的課題をテーマに事例研究を行い、研究者側も企業側もともに得られるものがあるよう、密度の高い協働研究を目指す。
- ② 引き続き、レポートの Web サイトでの公開を行い、会員企業や芸術文化関係者などとの成果物の共有などを通じて、メセナ活動活性化へ貢献するための働きかけの強化を図る。
- ③ アソシエイト制度を活用し、若手研究者育成に努めるとともに、任期終了後のアソシエイト向けに協議会からのお知らせなどの情報配信をすることで、協議会との繋がり継続と若い世代のメセナ活動への関心の維持・向上を図る。

## 5. 国外における企業メセナなど芸術文化支援情報収集の強化

諸外国の企業メセナや中間支援組織の活動について、基礎データ(各国の調査レポート、顕彰など)を Web 調査によって収集し、必要に応じて Web サイト(日本語)で最新情報や日本との比較情報を発信する。

## 6. 情報ライブラリー蔵書整理、Web ライブラリーと連動した活用への改善

情報ライブラリーについて、あらたな管理ルールを策定し、その方針に基づき蔵書整理を行う。企業の社会貢献活動担当者や学生など多くの方が芸術文化の中における企業メセナについて理解を深め、活用できる場にする。

### 【認定・顕彰】

#### ■ 目的

メセナの姿およびメセナが心豊かなより良い社会づくりの観点で果たしている役割を、活動事例から明らかにする。認定制度で多様なメセナ活動を幅広く顕在化させると共に、顕彰によりメセナの意義と重要性を広く社会に周知する。これらの制度により、メセナに取り組む企業・団体を奨励し、一層の活動の充実に寄与する。

#### ■ 事業内容

##### 1. 認定事業「This is MECENAT」

多様な企業のメセナ活動を可視化し、裾野を拡げることが目的に 2014 年に設立した認定制度。「これぞメセナ」と認定された活動には、シンボルとして「メセナマーク」を年度毎に発行し、専用ウェブサイトにて公開・蓄積するほか、顕彰事業「メセナアワード」と連動して運営する。

##### 2. 顕彰事業「メセナアワード」

1991 年に創設した、優れたメセナ活動を顕彰する事業。「メセナアワード 2015」より、「This is MECENAT」と連動して運営。認定年度の翌年に、特に優れた活動（メセナ大賞、優秀賞）を選考し、受賞活動に対して表彰状とトロフィーを贈呈する。[文化庁後援]

※This is MECENAT およびメセナアワードの審査・選考は、協議会が委嘱した外部の有識者によって行われる。

#### ■ 課題

「This is MECENAT」:掘り起こし拡大と新規登録件数の増加、地方企業や社会的企業への登録促進、広報の充実による認定メリットの強化、アーカイブデータの整理・分析・活用。

「メセナアワード」:選考会運営の工夫、受賞活動の多角的な発信と他事業との連携による企業メセナの意義を強くアピール。

## ■ 重点施策

### 1. 「This is MECENAT 2026」

- ① 事業間の情報活用と社会的企業などへのリサーチの拡大、新規登録件数の増加  
2025 年度は初めて 200 件を超える応募があり、認定件数も大幅に増加した。年々制度が定着してきている一方で、新規活動の登録数は横ばいに推移している。ライブラリーに蓄積された企業メセナの活動資料、クリッピング記事、調査研究事業のデータベースの活用とともに、掘り起こしをさらに拡大する。ソーシャルビジネスに取り組むスタートアップなど、時代を切り拓く企業にも向けてメセナ活動が社会課題の解決に向けた企業活動の一つである点をアピールし、新規登録の割合が安定して 3 割以上を目指す。
- ② TIM の認知度向上に向けて、地方創生に取り組む地域への戦略的な働きかけ  
SDGs 未来都市をはじめ、地方創生に取り組む自治体や中小企業、全国に展開するアーツカウンシルなど、多方面への応募・推薦依頼により、年々新たな都道府県からの活動登録が増えつつある。引き続き行政、経済団体、芸術・文化団体、教育機関、NPO などの動向を把握しながら、過去に認定実績の無いエリアへの働きかけを強化するなど、戦略的に地方への TIM の認知度向上に努める。
- ③ 多様な媒体と認定企業との連携による広報の相乗効果を図り、認定メリットを強化  
広報発信においては、TIM 認定発表のプレスリリースの地方紙・業界紙への個別配信、また認定企業・団体からのメディア情報の共有やリリース掲載により、2025 年度の記事件数は対前年比 2 倍以上に増加した。認定活動と TIM の認知度拡大に向け、継続して認定各社との相乗効果を図る。広報事業と連携のうえ、「アート&カルチャー」や SNS・メルマガ、取材レポートを通して企業メセナの最新情報を発信し、TIM の認定メリットにつなげる。
- ④ 活動担当者とのコミュニケーション促進、蓄積データの整理・分析・活用およびシステム運用の効率化  
TIM 認定後も活動担当者・関係者を贈呈式に招待するなど交流を促進し、TIM の価値を高め、登録・認定の意義とともに協議会への関心につなげる。また、TIM サイト上では活動地域やジャンル、開始年などで認定活動を分類しているが、業界・社会貢献分野・活動規模など、より広い観点でのデータ整理・分析も検討し、今後活用できるように努める。あわせて、TIM サイトシステムのマニュアルを作成・担当間で共有し、より効率的な運用につなげる。

## 2. 「メセナアワード 2026」

- ① 新任委員に向けて運営面の工夫・改善、中長期的なアワードのあり方を検討  
2025 年は先進性と継続性があり、芸術文化の土壌を育む多様な取り組みが受賞につながった。今年度も専門性に優れた委員を新たに選任し、企業メセナへの理解促進とともに、より充実した議論につなげるよう、選考会運営の工夫・改善に努める。引き続き認定・顕彰部会や選考委員のご意見を聞きながら、中長期的なアワードのあり方を検討していく。
- ② 受賞活動の多角的な発信、全国へ広くアワードを周知  
受賞活動について、10・11 月にプレスリリースを配信し、11 月下旬に贈呈式を行う。式典では受賞各社・団体の経営層に登壇していただけるよう働きかけ、会員企業はじめ協議会関係者を招待し、活動担当者や経営者の交流の場をもつ。協議会ウェブや TIM 専用サイト、SNS などでも角的に発信するほか、開催後は贈呈式レポートのウェブ掲載やアーカイブ動画の公開など、遠方の企業やプレスなどに向けて広くアワードの周知に努める。
- ③ 他事業との連携による企業メセナおよび協議会のプレゼンス向上  
セミナー・ネットワーキング事業と連携し、アワード受賞や TIM 認定企業・団体には、企業メセナの好事例として視察・セミナーなどの開催を依頼し、選考委員には講演会の登壇ゲストとして、企業メセナの知見を深める機会への協力を働きかける。これからの社会における芸術文化やメセナの意義を伝え、企業メセナおよび協議会への理解とプレゼンスの向上につなげる。



This is MECENAT 2026 / メセナアワード 2026 ロゴ



メセナアワード 2025 贈呈式

[This is MECENAT / メセナアワード実施要領]

- This is MECENAT 2026 募集時期: 2026 年 3 月～5 月
- メセナアワード 2026 エントリー〆切: 2026 年 5 月末
- 審査委員: 永山祐子 (建築家)  
八反田 弘 (東京藝術大学名誉教授)  
松尾卓哉 ((株)17 クリエイティブディレクター / CM プランナー / コピーライター)  
山梨絵美子 (千葉市美術館館長)  
夏坂真澄 (企業メセナ協議会理事長)  
ほか 1 名を予定
- メセナアワード 2026 贈呈式: 2026 年 11 月下旬予定

## 【会員ネットワーク | セミナー】

### ■ 目的

会員相互の情報交換と交流の促進、研鑽の場を提供し、企業とアート NPO・市民団体・文化政策に携わる国や自治体・教育機関等組織をつなぐ活動を行う。「メセナ」に関する中間支援団体として、プラットフォームづくりを通じ、相互交流の促進を目指す。

### ■ 事業内容

#### 1. 会員ネットワーキング活動の実施

新入会員の顔合わせの機会として「新入会員ファーストミーティング」を実施するほか、会員の関心が高いメセナの現場を視察し研鑽を深める「会員ネットワーク勉強会」などにより、会員各社・文化関係者の交流・ネットワークづくりを促進する。

#### 2. セミナー、講演会等の企画・実施

調査・研究、認定・顕彰、助成など基幹事業と連携した各種セミナーのほか、メセナ・文化政策等に関するセミナー、講演会を企画・実施する。

#### 3. 全国メセナネットワークの事務局を担当 (2019/4～)

1996 年に発足した国内各地のメセナ関連団体相互の交流、情報交換、協力を図り、各団体それぞれのメセナ活動を促進し、地域の文化振興に寄与する事を目的につくられた会。(現在 10 団体) 全国メセナネットワークの幹事として事務局を担うことにより、オンラインも活用しながら総会の実施、会員交流会の企画運営、会計処理を行い、地域の文化振興に貢献する。

## ■課 題

1. 地方会員のネットワークづくりなど、会員間の活発な相互交流の場を設定、企業や芸術文化団体との協働・連携による事業の活性化
2. 他事業の知見を活用し、先進的なセミナーテーマ・ゲスト・事例を選定
3. オンラインによる多角的な発信

## ■重点施策

### 1. タイムリーで多様なテーマの企画・様々な会員のネットワークづくりの場を検討

勉強会ではアートによる地域再生の先進事例として、関西のメセナアワード受賞活動を視察し、最新拠点の紹介やクリエイターとの交流など、協議会独自のツアーを催行した。「新入会員ファーストミーティング」では、昨年同様にミーティングとギャラリー見学を実施、地方会員にも参加いただき、会員ネットワーキンググループ幹事、運営企画委員、部会メンバーとの交流を深めた。今後も他事業と連携し、タイムリーで多様なテーマに即した企画を検討する。首都圏での視察をはじめ、地方会員のネットワークづくりの場も検討し、正・準・個人会員が相互交流しやすい場づくり・情報提供に努める。

### 2. 協議会事業の知見を活かし、社会のニーズを反映したセミナーを開催

- ① 調査研究事業との連携セミナー・報告会
- ② TIM 認定・アワード受賞企業トップ、審査委員、文化人、研究者等による講演会
- ③ 助成事業との連携セミナー（寄付、税制、法律、ファンドレイジング、フィランソロピー等）
- ④ 文化政策系セミナー（国内および海外における文化政策の最新動向）

などのテーマを柱に、各事業の知見を活かしたセミナーを引き続き開催する。また地域企業や社会課題に取り組む先進事例の紹介、アートとビジネスにおける新たな潮流など、企業メセナの可能性について考える企画を検討する。定期的に局内で企画会議をもち、事業間で情報共有のうえ、社会のニーズを反映したテーマ・ゲストを選定する。

### 3. 会員はじめ他団体との協働・連携を促進し、セミナー・イベントを効果的に推進

セミナーは会員との共催も検討し、広報発信や運営体制を強化しながら、より効果的に推進していく。そのほか大学や芸術文化関連団体とも連携を深め、企業メセナの普及促進とともに、芸術文化振興のさらなる発展や人材育成にも資する質の高いセミナーを行う。視察イベントについては幹事メンバーとの定期ミーティングを通してメセナ担当者の声を拾い上げ、協力して企画・推進していく。セミナー・イベントともに、アーカイブ動画としても蓄積するほか、メセナライターによる開催報告のレポートも引き続きウェブサイトで発信し、得られた知見・事例等を積極的に紹介する。オンラインの併用により、広く企業メセナの周知に努める。

#### 4. 全国メセナネットワークの交流・活性化

地域の文化振興に寄与することを目的につくられた全国メセナネットワークであることを踏まえ、国内各地にある 10 団体との交流や情報交換を図る。幹事として現地の要望をヒアリングしながら、今後の課題や組織のあり方を議論したうえで、活動の活性化を目指す。

### 【相談・協力 | コンサルティング】

#### ■目的

コーディネート、コンサルティング機能を強化し、企業や芸術文化に関わる諸団体の活動に寄与し、活発化させる。アート NPO や市民団体、文化政策に携わる国や自治体、教育機関等からの相談・協力依頼に積極的に対応し、セクターを越えた文化振興プラットフォームとしての役割を果たす。

#### ■事業内容

##### 1. 企業、文化団体やアート NPO などからの相談対応、コンサルティング業務

会員をはじめ企業・企業財団、民間の芸術文化団体、自治体等からの相談に対応し、芸術文化振興プラットフォームとしての役割を推進する。

##### 2. 企業・自治体等からの文化事業の受託・実施

##### 3. 諸団体からの講演依頼、評価委員等の受託

自治体、大学、文化団体等からの講演、審議委員等の依頼に対応する。

#### ■課題

コーディネート、コンサルティングにおける、事務局内リソースの活用と、提案力の向上

#### ■重点施策

##### 1. メセナの専門機関として、企業を中心に幅広く文化セクターなどの相談に応じる

30 年以上にわたり蓄積してきた協議会のノウハウ・ネットワークを活用し、メセナの専門機関として、企業を中心に幅広い相談に応じるとともに、文化団体やアート NPO、企業との連携を望む自治体等をつなぎ、パートナーシップによる芸術文化振興を促進する。

##### 2. 事務局内の柔軟な体制による、提案型コンサルティングの実施

各相談案件に最適なチームを編成し、事業のノウハウと知見を活かした提案を行う。実施内容を共有・蓄積し、今後それぞれの案件により適した提案活動となるよう努める。

## 【助成】

### ■目的

芸術文化活動に対する企業・個人からの寄付を促し、特定公益増進法人の特性(寄付金の税制優遇の適用)を活かした制度運用を行い、寄付者と活動者との間をつなぐ役割を担うことで、芸術文化の振興を図る。

### ■事業内容

#### 1.助成認定制度

特定公益増進法人の特性を活かした制度運用により、支援者は寄付をしやすく、活動者は寄付を集めやすくすることで、芸術文化活動への民間寄付を税制面から促進する。芸術文化団体(活動者)の申請を受けて、審査および活動の認定を行う。対象を活動規模 1,000 万以下の活動とし、制度を利用して集める寄付金が 500 万円までの比較的小規模または初めて寄付集めを実施する活動などを積極的に支援する。

#### 2. 社会創造アーツファンド[略称:Arts Fund]

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機に、①地域文化振興及び芸術文化による地域創造、②芸術文化を通じた国際交流及び日本文化の国際発信、③未来の日本の芸術文化振興に資する活動など、芸術文化振興に資する活動を重点支援対象とした寄付によるファンド。芸術文化振興を通じた心豊かなより良い社会につながる創造性あふれる未来への投資として、特定公益増進法人の特性を活かした制度運用により寄付を促進する枠組みをつくり、2014 年に設立。その後、2023 年に「社会創造アーツファンド」と改称し、寄付者の意向に沿った支援プログラムのコーディネートおよびファンドの運営を行う。

なお、活動者が寄付を集めるために利用する場合も、助成認定制度と同様に、活動の申請を受け付け、選考および活動の採択を行う。

#### 【実施要領】(助成認定制度／社会創造アーツファンド 同スケジュール)

- ・ 申請受付 年 4 回(1/20・4/20・7/20・10/20)
- ・ 審査・選考委員会 協議会が委嘱する審査・選考委員長および各ジャンルの審査・選考委員 6 名、計 7 名。年 4 回実施

#### 3. 芸術・文化による災害復興支援ファンド[GBFund]

東日本大震災の発災をきっかけに、芸術文化による復興ファンドを設立。その後、支援対象の災害を広げ、2020 年度は新型コロナウイルス感染症を対象災害として認定した。趣旨に賛同した寄付者の方とともに、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術文化活動や、被

災地の有形無形の文化資源を再生する活動支援を行う。2024年に令和6年能登半島地震を対象災害として認定し、引き続き寄付金の募集を行ってきたが、寄付の減少にともない再分配が難しくなってきたため、寄付金の募集を2025年で一旦取りやめ、2026年からはコーディネート型の寄付金受け入れに切り替えることで支援ができる体制を継続しつつ、ファンド残金については2025年に採択した活動の中で支援がまだ必要とされる活動へ追加助成を行う。また、被災した方や被災地を応援したい方など、活動者自ら寄付を集める活動の募集は引き続き実施し、協議会独自の公益法人の特性を活かした支援を当ファンドでも行う。

[認定災害]東日本大震災/熊本・大分地震/平成30年7月豪雨/  
新型コロナウイルス感染症/令和6年能登半島地震

#### 4.助成制度利用促進

毎月1回、助成制度利用を検討している団体を対象に助成相談日を設け、個別相談に対応している。対面またはオンラインで全国からの相談に対応し、制度利用促進を図る。

##### ■課題

1. 助成制度の制度特徴理解の促進
2. 芸術文化団体への助成制度利用の普及
3. 芸術文化活動者の制度利用の利便性向上
4. 助成事業の「かるふあん！」サイトの見直し
5. 認定活動の広報支援

##### ■重点施策

#### 1. 助成認定制度の利用促進

特定公益増進法人である協議会を通じた寄付は、公益的な芸術文化活動への寄付であることから、寄付者が税制優遇を受けることができるというメリットもあり、一定の理解を得て、継続的に利用している芸術文化活動者が多い。一方で、新規利用の活動拡大のため、制度の理解促進に資する資料が提供できるよう準備を進めていく。

「芸術文化活動者」、「寄付者」それぞれの利便性を高め、わかりやすい説明を心がけることによって、利用促進を図る。

##### (1) ツールの充実

制度の理解促進のため、紹介ツールの情報のアップデートとともに充実を図る。

事業パンフレットの作成を検討し、説明資料の見直しを実施する。

かるふあん！サイト(制度説明)の見直しを実施する。

## (2) 新規に認定・採択された活動者へのフォローの実施

認定・採択後の手続きや、かるふあん！サイトのクラウドファンディング機能の有効な利用方法などの資料を充実させ、手厚いフォローによる利用の定着化を図る。

## 2. 社会創造アーツファンドにおける目的別ファンド設置推進に向けた改善

社会創造アーツファンドは、特定の目的のために寄付を促す仕組みとして、寄付者の意向に沿った活動へ助成を行うファンドの設置を推進していく。当ファンドで目的ファンドを設置し、助成を行うことは、寄付金を公益性のともなった意志ある独自の社会貢献活動に変えていくものであり、その特性を理解していただくための紹介ツールの充実を図る。企業の意向に添った、芸術文化支援を簡易に実現する企業のメセナプログラムとして、企業によるファンド活用を促進していく。

### 【広報】

#### ■目的

協議会各事業の取り組み、および会員各社団体のメセナ情報等を広く発信し、「企業メセナ」の周知と多様な価値の見える化、協議会のプレゼンス向上に寄与する。メセナ全般の情報を広く収集し、メセナの情報発信、価値創造につなげる。

#### ■事業内容

##### 1. 国内外に向けた企業メセナ・協議会活動に関する情報発信

- プレスリリース配信(年間 10 本程度)、メールニュース(月 1 回、不定期)
- 協議会ウェブサイト(日英)の管理・運営、コンテンツ制作

メセナのイベントカレンダー「アート&カルチャー」の管理・運営とそれによる協議会会員および「This is MECENAT」認定活動のメセナイベント情報の紹介

「メセナライター制度」の運営。外部ライターによるメセナの現場および協議会主催イベントの取材レポートによる情報発信

公式 SNS (Facebook、X(旧 Twitter)、Instagram) の運用

##### 2. 協議会発行物の制作・管理

- 『メセナアワード』パンフレットをはじめ、協議会印刷物の制作管理

##### 3. 情報集配

- 協議会関係者および事業に関することや企業の社会貢献やメセナ全般に関すること、文化政策や文化の動向などの情報収集・共有・活用およびアーカイブ

#### 4. 問合せ窓口

- 各種問合せ対応

#### ■課 題

1. ホームページおよびアート&カルチャー運用の改善
2. SNS 投稿数増加による運用の改善
3. 会員各社団体にに関する情報発信

#### ■重点施策

##### 1. 各事業間の連携と協働

引き続き各事業と連携し、それぞれの業務強化につなげる。また各事業担当者とともに協働して発信強化を図る。

##### 2. ホームページと SNS の運用の見直し

より見やすく、アクセスしやすくするための改善を図る。英語サイトは昨年の小規模改修によりアクセスが向上したこともあり、コンテンツを少しずつ増やしながらサイトの充実を図る。また、アート&カルチャー掲載数増加に伴い、連動する SNS の運用を効率的にできるよう見直しを図り、さらなる効果的な発信強化につなげる。

##### 3. 定期的なアクセス解析の実施

HPのアクセス数をもとに年3回(1-6月、7-9月、10-12月)にアクセス解析と振り返りを行い、ウェブサイトやSNSの利用改善を検討しながら各事業へのフィードバックを行い、効果的な運用の最適化を図りながら戦略的広報計画につなげる。2023年よりグーグルアナリティクスの計測方法の変更により、昨年 2024年は前年比数値をすべて出すことができなかったが、2025年にそれが可能となったこともあり、2026年はさらに検討の幅を広げ、よりよいサイトづくりに努めていく。

##### 4. アート&カルチャーの周知および利用の定着化と拡大

新入会員をはじめ「This is MECENAT」の認定活動数が年々増加するとともに、新規の企業・団体も毎年一定数あるため、引き続き積極的に声がけをし、アート&カルチャー利用の定着化を図る。それにより掲載記事のバリエーションと数を増やし、さらなるサイトのプレゼンス向上を図る。

## 5. 企業メセナ訪問記など制作コンテンツのアクセス向上

メセナの現場担当の方にフォーカスする「企業メセナ訪問記」は、メセナライターが取材・執筆したレポートにより制作した読み物の記事だが、かねてよりウェブサイトの読みづらさが課題となっていた。そのため、昨年フォーマットを変更して読みやすさを向上させ、今後のアクセス数の増加を目指す。また、より一層の HP のアクセス性の向上を図り、SNS を活用した発信にも取り組む。

## 6. メディアおよび会員、協議会関係機関・団体などとのコミュニケーションの活性化

アート&カルチャーの掲載呼びかけにより、会員および This is MECENAT 利用企業・団体は定期的にコミュニケーションをとることが可能となっている。引き続き広報業務を通して会員をはじめメセナを実施する企業・団体、そしてメディアとのコミュニケーションを図り、協議会の活動の周知・理解に寄与する。また、芸術・文化を始め関係機関・団体などとの関係性を構築し、プラットフォームとしての機能強化に努める。

### Ⅲ. 年間スケジュール

月	事業	組織運営
1月	◆助成相談日開催 ◇会員ネットワーキンググループ幹事ミーティング	
2月	◆助成相談日開催	◎第1回運営企画委員会(2/3) ●第31回通常理事会(2/17)
3月	■Mecenat Report 2025 発行 ★TIM(This is MECENAT)2026 募集開始 ★認定顕彰部会 ◆助成認定制度&社会創造アーツファンド審査・選考委員会/助成相談日開催	●第15回定時社員総会 第54臨時理事会(3/5) @駐健保会館
4月	■メセナアソシエイト第12期レポート公開 ■メセナアソシエイト第13期募集開始 ■メセナライター第12期募集開始 ◆助成相談日開催	
5月	★TIM(This is MECENAT)/メセナアワード応募〆切 ◇会員ネットワーク勉強会(予) ◆助成相談日開催	
6月	★TIM(This is MECENAT)審査会 ◆助成認定制度&社会創造アーツファンド審査・選考委員会/助成相談日開催	
7月	■2025年度メセナ活動実態調査報告会 ■2026年度メセナ活動実態調査アンケート開始 ◆助成相談日開催	◎第2回運営企画委員会
8月	■2026年度メセナ活動実態調査アンケート〆切 ◇新入会員1stミーティング(予) ◆助成相談日開催	
9月	■メセナ勉強会(予) ★メセナアワード選考会、受賞活動決定 ◆助成認定制度&社会創造アーツファンド審査・選考委員会/助成相談日開催	
10月	★メセナアワード受賞活動発表 ◆助成相談日開催	
11月	■調査研究部会 ★メセナアワード2026贈呈式 ★「メセナアワード2026」発行 ◆助成相談日開催	◎第3回運営企画委員会
12月	★認定顕彰部会 ◆助成認定制度&社会創造アーツファンド選考・審査委員会/助成相談日開催	●第32回通常理事会